

学校運営については、以下のように考えました。

●教育実践の主体者は、学級担任集団

学校は、教育実践の場です。その教育実践にとりくむのは、担任の先生方です。子どもの尊厳と人権を脅かさない限り、「実践には口をはさまない。困った時には相談に乗る」これを基本にしました。管理職になると「授業実践の舞台から降りる」「先生方の応援者になる」とわが身に言い聞かせました。実践に口をはさむと、先生方のエネルギーは、子どもではなく、管理職に向かうようになります。それは避けたい。

●教育力の源は

では、実践の方針や評価はどうすればよいのでしょうか。それは、学級担任集団、学部集団で決めていくしかありません。思いを出し合い、議論を重ねて実践の方向性を見出す。子どもの姿を多面的に語り合い、実践の評価をする。これが、学校

現場の教育力の源です。

●隠岐の漁師に学ぶ

隠岐の近海で巻き網船団が漁をするとき、漁に関しては、『漁労長』という現場の統括責任者がすべてを決めます。現場に決定権があることが大事なのですね。

教育実践はイキモノ。常に順風満帆に…ということはありません。そういうときには、どうしたらよいのでしょうか。（つづく）



隠岐の巻き網船団



嗚呼青春の大研究

「Nintendo WORLD」

広島 まなびキャンパスひろしま
(福祉型専攻科)

藤澤海智



◆自分はゲームが好きです。とくにポケモンとカービィが大好きです。テーマ研究では、任天堂の昔のゲーム機やキャラクターについて調べました。

昔のゲームと新しいゲームのちがいをみつけようというテーマで、みんなでスーパーファミコンとスイッチのマリオカートをプレイしました。結論から言うと、スーパーファミコンは苦手な人が多くて苦戦していました。発表会で少し笑いも入れました。

まわりに「オレはきらいだからそれはやめろ」「子どもっぽい」など、自分の好きなことをわかってもらえない人もあると思います。が、自分の好きなことだと積極

的に研究ができると思いますので、自分の思いを大切にしてください。



ゲーム体験の様子。今と昔のゲームのちがいを楽しく体験するために工夫しました。

●テーマ研究の活動を通して自分や仲間への思いを尊重することができ、将来につながる大きな自信になったと思います。
(小西寛之)